

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ことばと発達の相談室 おのまとぺ		
○保護者評価実施期間	2025年11月1日		～ 2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数) 44
○従業者評価実施期間	2026年1月20日		～ 2025年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全ての日に専門職種を配置し、個別指導を実施している。職員 の半数以上が15年以上の経験を持っている。（必要児には個 別訓練のほかにグループ訓練も実施） 保護者への支援として、毎回親子で通所していただき、利用児 の訓練時間の間に、保護者への十分なヒアリングと相談時間を 設け、相談・聞き取りを行っている。	主に2つの個室を利用して、個別指導を実施している。ほかの 部屋または大きな訓練室を保護者と兄弟児の相談等に利用して いる。（利用児の訓練時間の間に、保護者の相談の時間にあて ている）	家族や兄弟児を同伴しての来室が多い。積極的な働きかけを 行い、保護者や兄弟児への対応を通じ、利用児の環境調整と なるよう配慮したい。
2	言語聴覚士による言語認知発達に特化した支援や学習困難と、 臨床心理士による発達全般への視点での保護者を含めた支援を 行っている。児童指導員も研修等でスキルアップを図り児の支 援および保護者対応の研鑽を積んでいる。	保護者のニーズと利用児の困り感を把握するためのアセスメン トを十分に行い、専門的な支援に絡めた視点での助言を行って いる。毎回、保護者と指導者ならびに在勤スタッフが近況の情 報収集、フィードバックで共有の面談時間を十分に確保してい る。	適時適切な支援に結びつくように、多角的な視点が持てる支 援者としての専門性を高めていく。
3	一人一人の発達段階に合わせたプログラムで、保護者の意向や ニーズをしっかりと聞き取って、保護者の意向やニーズを取り 入れた計画を作成している。	毎回の直接指導の中での変化に注意する。保護者との面談で得 られた情報をなるべく早く支援に反映していく。	言語聴覚士、臨床心理士によらず、他の有資格者のスタッフ の専門性をさらに高めるため、事業所内の勉強会や実践を通 して、利用児及び保護者指導等の経験を積めるようにしてい る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害に関する利用者の訓練。	個別指導で親子で短時間の通所のため、全体での避難訓練の実 施が困難。	スタッフ全員の非常時への備えや研修を実施するとともに、 利用児の面談時間を利用して保護者に対して非常時の対応へ の具体的な案内を行っていくことが必要。 避難経路の掲示、初回利用時に避難時の対応について保護者 に説明する、グループ訓練の際に、避難訓練を行うように試 みる。
2	地域の子どもたちとの接点や地域のコミュニティとの交流	個別指導で親子で短時間の通所のため、イベントや地域との交 流機会を持ってない。	個別対応の強みを生かして、それぞれのお子さんにあった地 域の情報を発信していく。土地柄、他の地域から引っ越して きた親子も多いので、親子で楽しめる施設などの情報をお知 らせていくようにする。また、事業所内でも季節のイベン トを感じられるような環境を作って働きかけていく。
3	父母の会	個別で相談をする保護者が多く、保護者同士で情報交換をする 時間を設けることが難しい。	同時間帯に複数の保護者が集まった際は、職員が間に入り、 悩みを打ち明けたり、情報交換がしやすい環境になるよう配 慮・調整していく。また、父母の会の告知を行い、希望者に 集まって頂き、保護者同士で情報交換ができる時間を持つこ とができるように調整していきたい。年齢や悩みが似たお子 さんを同時間帯に訓練できるように調整し、保護者同士で情 報交換できるように配慮していく。